

【事業実績】

※作成要領に従い事業実績は2頁で作成ください。

1 冊子『穂高の宝』の刊行 全184頁 2,000部印刷

- (1) 冊子の印刷
- (2) 現地調査のようす

ア 豊科郷土博物館友の会による現地調査

(令和2年11月28日 穂高有明・宮城地区 参加者14人)

・古厩区宮城の有明山神社、正福寺のほか「^{ぎしき}魏石鬼の^{いわや}窟」と呼ばれる古墳の内部まで踏査した。

(ア) 参加者の反応等

- ・初めて古墳の内部を見学することができ、貴重な体験であったとの感想あり。
- ・友の会会員に限った調査であったが、普段見られない古墳内部の見学会だったので、これが契機となって友の会への新規加入者が増えた。

イ 『穂高の宝』執筆者らによる調査(主なもの)

(ア) 調査者 横山 幸子(安曇野市教育委員会教育部文化課、『明科の宝』・『穂高の宝』執筆者)

調査箇所 常念岳一の沢登山道(7月2日)、中房谷(10月25日)水晶山(10月27日)、
浅川山(11月5日)、烏川と穂高川の合流点(12月3日) ほか

(イ) 調査者 松田 貴子(実行委員会事務局、豊科郷土博物館学芸員、『穂高の宝』執筆者)

調査箇所 満願寺周辺(4～10月)

2 展覧会・講座の開催

(1) 豊科郷土博物館企画展「満願寺展Ⅰ 描かれた満願寺とその自然」

(会期 9月5日(土)～11月8日(日))

- ・穂高牧の栗尾山満願寺について、歴史、民俗、自然等、多角的に紹介した企画展。
- ・当初は7・8月に開催を計画し、「満願寺展Ⅱ」を秋季企画展として秋に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、「満願寺展Ⅱ」を令和3年度に先送りし、秋季企画展として「満願寺展Ⅰ」を開催した。

(2) 「満願寺展Ⅰ」関連講座

ア 「描かれた満願寺からみえるもの」(令和2年9月6日(日) 参加者35名)

講師 原 明芳(実行委員長、豊科郷土博物館長)

- ・明治時代の絵図に描かれた満願寺のようすから、その変遷をたどった。
- ・新型コロナウイルス感染症防止の観点から、午前と午後

の2回開催し、参加者の密集を避けた。

イ 「満願寺が創建された時代の安曇野」

(令和2年9月19日(土) 参加者39人)

講師 原 明芳

- ・史料上にはまだ満願寺の名が見られない時代、周辺地域で発見された出土遺物から、中世の牧・草深郷のようすを探った。

ウ 「満願寺をめぐる自然」

(令和2年9月27日(日) 参加者16人)

講師 松田 貴子(実行委員会事務局、豊科郷土博物館学芸員、『穂高の宝』執筆者)



豊科郷土博物館友の会調査(11月28日)



講座「満願寺をめぐる自然」(9月27日)

- ・古来、満願寺の周辺の山林は、寺林また国有林として保護され、手つかずの自然が残されてきた。当該区域の植生を調査した成果を報告した。

エ「栗尾道から死出ノ山、そして満願(令和2年10月17日(土) 参加者18人)

講師 原 明芳

- ・中世から近世、そして現代と満願寺へ通じていた道の変遷をたどる。特に、「死出山」の位置と、現在の温泉地として知られる中房谷へと続く道を検証した。



講座「栗尾道から死出ノ山、そして満願寺」(10月17日)

3 穂高公民館講座

(1)「浅川山～冷沢～信濃坂トレッキングと自然観察会」
(令和2年9月29日(火) 参加者13人)

講師 松田 貴子

- ・温泉地として知られる中房谷へ出る古道に近い道をたどりながら、穂高の浅川山の自然観察を行った。

4 学校との連携

(1) 穂高東中学校 「穂高のオフネ祭り」に関する学習(令和2年7月29日(水) 参加者7人)

講師 宮本 尚子(実行委員会事務局、豊科郷土博物館学芸員、『穂高の宝』執筆者)

- ・「穂高の文化」を学ぶ穂高東中学校3学年の生徒たちと穂高地域のオフネ祭りについて学習し、生徒たちの伝統文化への理解を深めた。

(2) 穂高西小学校 地域探検クラブと共働した調査・学習

ア 道祖神の調査・学習(令和2年10月19日(月) 参加者10人)

講師 宮本 尚子

イ 学校周辺の樹木の調査(令和2年11月4日(水) 参加者10人)

講師 松田 貴子

(3) 穂高南小学校 学区内の生き物の観察

(令和2年11月27日(金) 参加者約90人)

講師 那須野 雅好(実行委員、安曇野市教育委員会教育部文化課、『穂高の宝』執筆者)

- ・同校学区内の堰(用水路)にコンクリート3面張りが施工される前に、サワガニやカワニナ等、水辺に生息する生き物の観察会を行い、また上流への移動を行った。



穂高南小学校 学区内の生き物観察

5 明科公民館との連携

令和元年度に刊行した『明科の宝』を活用した講座を明科公民館との共催により開催。

(1)「明科の宝 part I ～おみやげを配りにきた神職—伊勢神宮と戦国時代の明科—」

(令和2年8月25日(火) 参加者約30人)

講師 逸見 大悟

(実行委員会事務局次長、安曇野市教育委員会教育部文化課、『明科の宝』・『穂高の宝』執筆者)

(2)「明科の宝 part II ～虫の眼でみた明科の自然～」(令和2年10月27日(火) 参加者約30人)

講師 那須野 雅好(実行委員、安曇野市教育委員会教育部文化課、『明科の宝』・『穂高の宝』執筆者)

(3)「明科の宝 part IV～縄文から古墳時代の明科～」(令和3年2月4日(木) 参加者約30人)

講師 土屋 和章(安曇野市教育委員会教育部文化課、『明科の宝』・『穂高の宝』執筆者)